



発行者・NPO法人  
男女共同参画をすすめる会・IYOU波海  
〒523-0891 滋賀県近江八幡市鹿飼町80-4  
県立男女共同参画センター内  
TEL 0748-37-8615 FAX 0748-37-1331  
E-mail : npo\_iyou\_umi\_2008\_4@ybb.ne.jp

## 米原市長に聞く 男女共同参画推進計画

Q) 男女共同参画社会を、どのようにお考えですか

- A) 女性の社会進出は大切なことなので、男女が社会の対等な構成員として、
- ① 社会のあらゆる場における活動に参画する機会が確保されることが大切だと考えます。
  - ② 政治的、経済的、社会的にも、また文化的利益を享受することが出来る社会であることも大切です。
  - ③ そして、なによりも重要なことは、男性も、女性も共に責任を担う社会であること、ではないでしょうか  
そんな、社会の実現に向けて取り組みたいですと考えています。

Q) 貴市の取り組みをお聞かせ下さい

- A) 米原市におきましては、平成19年に男女共同参画推進計画「ハートフルプランまいばら21」を策定し、女性も男性も誰もがお互いの人権を尊重し、認め合い、支え合い、共生していく社会の実現に向けて取り組んでいます。平成24年に改定の時期がきており、現在、改定に向けた市民意識調査や数値目標などについて、懇話会や職員ワーキング会議で議論を深めているところです。

具体的な取り組みとしては、住民組織の基盤である自治会において、地域の実情に応じた多彩な男女共同参画実践活動を通して、地域社会における男女共同参画によるまちづくりを推進することを目的に実践モデル地域指定事業を実施しています。

その他、市民を対象としたフォーラムの開催による「啓発事業」「こころの悩み相談事業」議員や市職員対象の研修会などの事業を行っています。

また、米原市では人権総合センターと併設で男女共同参画センターを設置しており、指定管理者制度により管理・運営しています。市や他組織との共催によるフォーラム・講演会開催、相談事業など様々な事業を行っています。「G-NETしが」を中心に他の施設とも連携し、情報交換を行っています。

Q) 特に力を入れておられる「男女共同参画推進」に向けての取り組みは何ですか

- A) 米原市では、昨年7月から「まいばら親子の絆プロジェクト」を立ち上げ、豊かな米原を次代に引き継ぐために、近所づき合い等が疎遠になったと言われる今の時代だからこそ、絆を見つめ直そうと、人と人との最も基本的な人間関係「親」と「子」に焦点をあて、「親子の絆」づくりに取り組んでいます。そこで、平成23年度の予算編成をする上で、庁内一課一事業として絆事業を取り入れ、プロジェクトで年間を通した総合的な実施を計画しています。

また、今年7月24日(第4日曜日・親子の日)に「イクメン養成講座」を計画しています。「仕事と育児を両立して楽しんで生きたい」と意識し、実践できる父親を養成するために、父親の「育児参画と働き方」を見直すきっかけづくり



米原市市長

を図り、「親子の絆」「家族の絆」「地域の絆」を醸成する機会にしたいと思っています  
絵本を中心に「トーク&絵本ライブ」をNPO法人ファザーリ

ング・ジャパン代表理事の安藤哲也さんに来ていただいて、ワーク・ライフ・バランスを実践する意義や効果などを親子で楽しみながら教えて頂く予定です。  
この事業をきっかけに、米原市にイクメンパパがどんどん増えていくことを願っています。

# よりよい未来にむけて

Q) 女性職員登用の現状は如何ですか

- A) 職員数は396人 男性244人  
女性152人 (38.4%)  
女性の課長級以上の管理職は 11.3%  
うち、一般行政職は 5.5%  
(平成22年4月1日現在)

米原市では管理職登用試験(主幹への昇進)を実施しており、今年度は、対象者の34.5%が女性で、受験率は31.3%と試験に挑戦する女性は例年3割強という状況です。  
職場においても、性別に関わりなくお互いを認め合い、個性と能力が十分に発揮出来る環境づくりは、重要だと思います。  
そのためには「ワーク・ライフ・バランス」の意識を浸透させ職員自身が働き方を見直すことも必要ですし、それが親子の絆、家庭の絆、地域の絆へとつながっていくのではないのでしょうか。

Q) 女性にエールを送るとすれば・・・

- A) 積極的に参画されることが大切です。周囲から推薦するのも良いですね! また、いろんな機会に自分のしていることを発表し、PRするのも大切かと思っています。





# 「くるみん(認定)マーク」企業のご紹介

今は夫婦共働きの社員も多い、ワークライフバランスの推進を

従業員100人以下の企業としては  
県内で始めて「くるみん」取得のびわこテック(株)中澤さんにお聞きしました

業種 製造業  
従業員数 35名(男性31名・女性4名)  
所在地 近江八幡市



Q)「くるみん」を取得されたのはどのような取り組みを達成されたからですか。

A)女性の育児休業取得と男性の子の看護休暇の取得です。

Q)「くるみん」取得をめざされる動機となったものがあったのですか。

A)これまで女性社員は、妊娠や出産を機に退職されたのですが、育児休業を取得したいと言う申し出があったのを機会に妊娠・出産・育児休業を経て復職できる制度が必要と考えました。

Q)具体的にはどのような取り組みをされたのですか。

A)子育て中に利用できる制度と復職への不安を取り除くため、本人とコンタクトを取ることや、人事異動等全社的な情報を知らせました。

Q)女性社員は4名しかいらっしゃらなくて、そのうち1名が育児休業を取られて、仕事の方はどうなさったのですか。

A)正規採用で代わりの人を雇うと休業者が復帰しにくくなるので、全員でカバーしました。

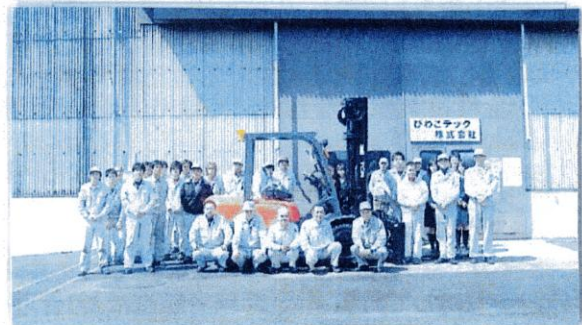
Q)「くるみん」認定には、男性の育児休暇か、子の看護休暇の取得が必要とされていますが…

A)認定を受けた一般事業主行動計画の期間内は、子の看護休暇の取得者は1名でしたが、22年4月以降は4名が取得しています。

男性の取得者が増えている背景には、当社が以前から取り組んできた業務の多様化があります。

Q)業務の多様化とは？

休暇を取得しても、職場の誰かがカバーして仕事がこなせるようになっているのです。



社員のみなさま

## 私の思い 中野璋代

NPO法人男女共同参画をすすめる会  
I・YOU淡海理事長

滋賀県男女共同参画推進協議会からNPO法人I・YOU淡海に変わり、最初は会員一同戸惑うことばかりでした。その後今までの事業の継続、和服のリフォームファッションショーやそれに向けての講座や男女共同参画の学習会等、私達の身近で誰もが参加でき「キラリ」と光る事業を…と何回となく理事会で話し合いました。そうしたなか、男女共同参画センターの今後のあり方に関連した県議会の傍聴をしたり、広い視野からの学びをすることができました。また、仲間の「話」「輪」「和」を大切にと会員の心を一つに願い進めてきました。それと同時に会員相互が研鑽をつみ、より一歩前進した想いを持ち楽しい中にもやりがいのあるNPOでありたいと、思いは大きく膨らんできました。

今、私達をとりまく社会情勢は目まぐるしく変わってきています。こうした中、私達の拠点である男女共同参画センターが大きく変わるうとしています。

私達はその中で、県民のニーズに 대응するために、そしてセンターと共に歩むを進め、誰もが親しみを感じられ、その中で、質の高いNPOにしなればと思います。

今まで歩んでこられたのも、センターの温かいご指導やご助言、多くの人達や会員同士の強い絆のお陰と、心より感謝の気持ちで一杯です。

今後は、各方面で培われてきた学びと実践を活動に存分に活かし、楽しい中にもしっかりと目標に向かい歩んで行ってほしいと心より願っております。



Q) 制度があっても利用者なしとよくいわれますが、利用しやすいよう何か工夫されているのですか。

A) 利用するには、同僚に加えて、上司の理解が必要です。そこでトップの参加のもと、子育て期における制度について管理職研修を実施しました。

トップからも、男性の申し出に柔軟に対応するよう指示があり、担当としては、大変やりやすかったです。



Q) 社員への周知はどのようにされましたか。

A) 産前産後休暇・育児休業・子の看護休暇・短時間勤務制度など、子育て期間に利用できる制度をわかるやすくペーパーにして張り出し、朝礼でも、全社員に呼びかけました。また、相談も受け付けています。

Q) 社員の反応はいかがでしたか。

A) 男性社員からは、子の看護休暇について、「こんな制度があったのか」と驚きの声が上がっていました。

Q) 今後、新たに取り組んでいこうと考えておられることがありますか。

A) 時間外労働の削減や有給休暇の取得促進など間接的に子育て支援が出来るよう、取り組んで行きたいと思います。

また、これまで子育て支援に力を入れてきましたが、介護の問題にも目を向ける必要を感じています。

Q) 社員の数が少ない中小企業では、ワークライフバランスの取り組みは難しいという声を聞きますが、

A) 人員に余裕がないのは確かですが、社員一人一人に目が向けられるという利点があります。

また、社員同士のつながりが強く、お互いの家族の状況もわかっていて、子育てに関する制度の整備や利用について周りの理解が得やすかったのではないかと思います。

「くるみん」マークとは  
少子化対策の一環として、子育て支援などへ積極的に取り組む企業が取得できる認定書のことで、  
「くるみん(認定)マーク」や「次世代認定マーク」「次世代育成認定マーク」などと呼ばれる。  
これらは、厚生労働省が定める基準を満たした企業や団体などが認定され、取得後はそのマークを企業の広告や商品、会社案内(パンフレット・ホームページ)：役務上で用いるもの(名刺・制服・車両など)、求人募集広告などの案内文書などに添付・付加する事が出来る。



くるみんマーク

理解あるトップのもと、中小企業ならではの利点を生かしての、ワークライフバランスの取り組みの今後ますますの推進に期待をしたいと思います。ありがとうございました。

## 生きがい発見

楽習講座ごあんない

～ 一緒に楽習しませんか ～

日々心豊かにくらすために生きがい発見楽習講座の

お手伝い(講師派遣等)をします。

あなたの経験・あなたの才能・あなたの腕を活用する絶好の機会です

例えば、健康づくりニュースポーツ・男女共同参画社会づくりのための基礎のお話

健康づくり家庭料理など

会員になってあなたもあなたの想いを形にして下さい。

詳細は、☎0748-37-8615まで

会員登録のための申込書は、お近くの協会にお申し込み下さい。





# コラム

日々是好日

近江八幡市 深尾隆太郎

退職して間もなく10年。退職するまでは晴耕雨読の生活に憧れていました。

また、先輩方から趣味を多く持ち、できるだけ多くの方々と関係を持つようにとのアドバイスをいただいていた。趣味の方はこれといったものを見いだせない状況が続いていますが、社会とつながりつつ、自分にもプラスとなることはないかと広報やチラシを見て講習会などに参加してきました。その結果、以前から関心があった健康づくり環境問題に興味をもて、とりわけ、高齢者向けのゴムバンド体操、認知症の啓発活動などに取り組んでいます。

齢を重ねるごとに、特に60歳を過ぎると足腰が衰えてきます。日頃からの運動の大切さが言われていますが、足腰の筋肉の衰えは、ウォーキングで十分に予防できるものと思っていました。しかしウォーキングだけでは全身の筋肉の20%~30%しか使っていないこと、手軽に全身の筋肉を鍛えるにはゴムバンド体操がよいことを教えていただきました。当初は、こんなゴムバンドで本当に全身の筋肉が鍛えられるだろうかと半信半疑でしたが、体操後の心地よい全身の疲れや、一緒に体操する仲間の「ゴムバンド体操を始めてから体調がよい」と言う言葉に、なんとなく効果を実感しています。継続はちからなり、これからも元気に楽しくすごせるよう、仲間とともに頑張っていきたいと思っています。

さて、足腰の筋肉の衰えとともに気にかかることが認知症です。認知症に関する図書も多く発行され、テレビでも取り上げられることも多くなり、認知症への理解は広まっています。しかし、高齢者の介護はまだ家族が担っている事が多い日本において、認知症の問題は本人や家族だけが抱えていることが多いのも事実です。

厚生労働省が平成18年度から行っている「認知症サポーター100万人キャラバン」という取り組みがあります。これは認知症の人と家族への応援者である認知症サポーターを全国で100万人つくりだし、認知症になっても安心して暮らせるまちを目指しているもので、この取り組みを広めるキャラバンメイトとして、地域の小・中学校の総合学習の時間に仲間とともに参加して、小・中学生の認知症への理解を深める学習のお手伝いをしています。

このようにいろいろなことに参加していると、なかなか忙しい毎日です。憧れの晴耕雨読生活はどこへ。しかし、お陰さまでいろいろな人との新しいつながりができました。憧れ続けている間が花なのかもしれないと思い始めています。



## 編集後記

第三次「男女共同参画基本計画」では、理論より実行することの大切さは勿論のこと。

新しい「ネットワーク」づくりの重要さが取り上げられています。

少子・高齢社会を生きる私たちの暮らし方を、一緒に考えて下さる方、一緒に行動して下さる方、ご投稿をお待ちしています。

### I・YOU 淡海では

- ・あなたの実力が発揮できます
- ・あなたの能力を活かれます
- ・あなたの想いを伝えられます

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1) 入会金      | 1, 000円    |
| 2) 年会費      | 個人 3, 000円 |
|             | 団体 3, 000円 |
| 3) 賛助会員 (年) | 一口 2, 000円 |

いつでも  
入会できます